

1 事業名

平成26年度 教育事業

【How To ボランティア～ボランティア活動の基本を学ぼう～】

2 趣旨(事業の目的)

講義や演習, 野外活動体験等の研修をとおして, 青少年教育におけるボランティア活動に必要な基礎的な知識・技術について学ぶ機会とする。

3 期日 平成26年5月24日(土)～25日(日)

4 参加者(参加対象、参加者人数)

61名【高校生22名, 大学生39名, (盛岡大学社会教育実習生38名を含む)】

5 連携・協力 盛岡大学

6 内容

(1) 日程

5月24日(土)

	10:00	11:30	12:00	13:00	14:30	15:00	19:00	19:30	22:30
受付	講義・実習 「青少年教育施 の役割」 はじめにアイ スブレイク	説明 「法人ボラ ンティア登 録につい て」	昼 食 ・ 休 憩	講 義 「ボランティア 活動の意義」	移 動 ・ 休 憩	自然体験活 動 「野外炊事」 びっくり ディナー	講義・実習 「人と人の輪 を繋ぐアクテ ィビティ体験」	入 浴 休 憩	就 寝

5月25日(日)

	6:30	7:00	7:30	9:00	12:00	13:00	14:30	15:30	15:10
起床	洗 面 ・ 清 掃	朝 の つ ど い	朝 食	実 習 「赤十字救 急法につい て」	昼 食 ・ 休 憩	講 演 「青少年教育の 理解」	アンケート 回収・諸連 絡	閉 会 行 事	解 散

(2) 指導者

岩手県立大学 社会福祉学部	専任講師	菅野 道生 氏
国立岩手山青少年交流の家	主任企画指導専門職	氏家 伸
国立岩手山青少年交流の家	企画指導専門職	丹 康浩
国立岩手山青少年交流の家	企画指導専門職	中田 春輝
国立岩手山青少年交流の家	事業推進係	及川未希生
日本赤十字社岩手県支部	救急法指導員	八重樫京子 氏
日本赤十字社岩手県支部	救急法指導員	高柳 明子 氏
指導補助	法人ボランティア	

(3) 企画のポイント

青年がボランティア活動に必要な基礎的知識や技能について、効果的に身に付けることができるように、講師の選定を工夫した。講義や演習は、「東京ボランティア・市民活動支援センター」でボランティアやNPO支援の活動実績がある岩手県立大学専任講師の菅野氏に依頼した。実習や自然体験活動は、当施設の職員や法人ボランティアが担当した。日本赤十字社の指導員による救急法、当施設の職員によるアイスブレイクや自然体験活動、法人ボランティアによる実践等をとおして、初心者から経験者までそれぞれの立場に応じた学びができるようにした。

(4) 広報のポイント

当施設ホームページに事業の開催要項とチラシを掲載した。開催要項に関しては、チラシとともに岩手県教育委員会教育長、東北6県大学・短期大学長、岩手県内高等学校長、各報道機関に送付した。

盛岡大学社会教育実習生へは、直接大学に出向いてガイダンスを行った。

(5) 運営のポイント

機構の共通カリキュラムをもとに事業を推進する中で、ボランティアに対する理論や知識を習得するとともに、アイスブレイクを行い、61名の参加者たちのコミュニケーションが十分にとれるように進めた。

法人ボランティアを運営スタッフに加え、実際の活動を見せることで法人ボランティア自身のスキルアップも図れるようにした。

7 成果とその普及

今回の事業では、体を動かしながら、たくさんの人と関わる活動を多く取り入れた。参加者のアンケートにも「色々な人とコミュニケーションをとることができて楽しかった。」「人との関わり大切さについて学ぶことができた。」等の感想がたくさん寄せられた。2日間、講師である菅野氏に全体をコーディネートしていただくことで、全体の活動がよりねらいに迫るものとなった。

さらに人と人の輪を繋ぐアクティビティ体験を法人ボランティアが活動の補助として、実際の活動を見せることができた。このように、法人ボランティアが実際に指導する場を設けたことにより法人ボランティアの指導力の向上がみられたとともに、参加者はボランティア活動を身近なものとして捉えることができたことは効果的であった。

また、活動の様子が岩手日報に掲載され、県内に広く周知することができた。

8 今後の課題

1泊2日の限られた時間の中で参加者同士が体を動かしてコミュニケーションを深めることができた。今後、登録した法人ボランティアが当所できいきと活動が出来るように、スキルアップ講座等の研修の機会を設けていく必要がある。



参加者全員で集合写真



野外炊事の様子



救命救急法の実技